

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	東アジア学術・文化交流のオフキャンパス型アップデート				
研究組織	代表者	所属・職名	国際関係学研究科・教授（現代韓国朝鮮研究センター兼務）	氏名	奥菌 秀樹
	研究分担者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	小針 進
		所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	澤崎 宏一
		所属・職名	国際関係学部・助教	氏名	青山 知靖
		所属・職名	韓国東西大学校・外国語学部・教授	氏名	李 元範
		所属・職名	韓国東西大学校・日本研究センター・研究員	氏名	山口 達見
		所属・職名	韓国延世大学校・政経学部・副教授	氏名	朴 成皓
		所属・職名	韓国延世大学校・政経学部・助教授	氏名	金 亨鐘
		所属・職名	中国延辺大学・外国語学院・副院長	氏名	全 永男
		所属・職名	中国延辺大学・国際交流合作処・処長	氏名	金 永燦
		所属・職名	中国延辺大学・国際交流作処・海外事科長	氏名	黄 琴
発表者	所属・職名	国際関係学部・助教	氏名	青山 知靖	

講演題目	看護学部棟 13302 教室を拠点とするハイブリッド Zoom 授業の予備的実践の報告
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>本学は令和4年3月に草薙キャンパス看護学部棟3階13302教室を改装し、オーディオ・ビジュアル機器を活用した遠隔・対面ハイブリッド授業の拠点教室を整備した。本研究では、学内外の多拠点を結ぶオフキャンパス型授業の実施を想定し、看護学部棟内の3教室を結ぶハイブリッド Zoom 実験授業を行った。そして、13302 教室の各種機器・備品の総合的な動作確認と使い勝手の検証を行った。</p> <p>実験授業は、令和4年6月3日（金）5時限に、国際関係学部基礎科目「コンピュータ・リテラシー」（担当：青山、受講生6名）で実施した。授業形態は、13302 教室での対面授業（教員と受講生4名）に13402・13414 教室から受講生各1名が学内無線 LAN 経由でリモート出席する、という30分間のハイブリッド Zoom 授業とした。授業目的は、事前に配付した新聞記事をもとに情報共有やディスカッションを進め、Windows パソコン操作を快適にするための新たな知識・スキルを習得することとした。</p> <p>実験授業では、受講生6名全員が新しい知識・スキルを習得する、という授業目的を完全に達成することはできなかった。なぜならば、授業時間中の一時的な無線 LAN 通信障害が原因となり、13402 教室からは Zoom 授業にアクセスできなくなったからだ。一方で、13302・13414 教室間の通信は良好で、受講生5名の間の情報共有やディスカッションは円滑に行われた。13302 教室に整備された各種のオーディオ・ビジュアル機器が不具合なく動作し、高品質な音声と映像を Zoom 授業で利用できたことが最も大きな要因である。この点で、13302 教室の改装・整備は成功したとみなしてよいだろう。</p> <p>本学は令和5年1月に学内無線 LAN 機器を更新し、より高速で安定したインターネット利用ができるようになった。上記の実験授業で発生したような通信障害が起こる可能性は低くなった。このことをふまえると、13302 教室の総合的な使い勝手は向上し、ハイブリッド Zoom 授業もより快適かつ円滑に進められるはずだ。このことを検証するためにも、本研究では令和5年度も、13302 教室を拠点としたハイブリッド Zoom 授業の実践を深めていく予定である。</p> <p>なお、今年度の研究では、本学教員が韓国延世大学校未来キャンパスを訪問し、小規模の日韓学生遠隔会議を開催する予定であった。しかし、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大を受け、延世大学校への訪問と遠隔会議の開催を取りやめた。</p>